寺崎組新聞

発行所　寺崎組新聞社
東京支社　0423-25-0350
〒185東京都国分寺市東元町3-29-7

豪州一周達成

やった～～～税金（本名杉本隆司）

ボロボロのクルマもボロボロの人間も今年は満載

おーまいごっと

えらいすごい

ちみらないスゲー

前略モンゴルツーリングどうでしたか？　私は今Cairnsにいます。

これまでの経過です。6月25日に学校が終わり、26日朝出発、同じホームステイの仲間が余りの荷物の多さに驚き「タカシ本当に大丈夫か事故に気をつけろよ」と声を掛けてくれる。ホストファミリーの子供達も「Your motorcicle too big!」と声を上げる。皆の見送りを受けスタート。シドニーにいた十週間何をやってもスムーズにいかず、この街も白人も嫌いになった。少しでもはやくこの街を出たい、そう思い1号線を北へ。この日471・1KM走った。

7月1日、MuttaburraからHughendenそしてTheLyndまでダート450KMが続く。道を横切るカンガルー、羊、牛、エミュー。対向車とのすれ違いがビビる。冬休み中の今、キャラバンを引いた車も多いのに驚く。固い路面の道は問題がない。80～90KM／Hで走る。困るのは、ガタガタのウォッシュボード。何KMも続くので、手・足・歯がガンガン痛くなる。セローも物凄い音を立て今にも壊れそうだ。もう勘弁してくれよと思い、端の方へレーンを変えると細かい砂が積もっていて、とたんにハンドルが左右へゆれはじめる。パワーも食われる。何とかまっすぐに立て直し、やはりガタガタ道に戻る事になる。一体何度この繰り返しを行ったことか。砂の深い所が一ヶ所だけあった。急ブレーキを掛けたように減速していく、6－5－4とシフトダウン。3速全開で走り切る。1～2Mの幅で大きく左右に振りまわされながら、ハンドルを押さえた方がいいものか、フリーの方がまだましか？　などと考えるのは走りやすい道の時。あれだけ何度もビビっているのに1度の転倒も無く、今日までできて本当に自分はラッキーだと思った。この日の燃費は最低の23KM／ℓ　次ぎの日Cairnsのキャラバンパークで1週間ぶりにシャワーを浴びた。

	走行	燃	出費	O$
6／26	471・1		14・00	
27	371・3		0	
28	425・1		23・15	
29	402・8		31・85	
30	503・5		11・00	
7／1	458・2		19・20	
2	393・3		39・70	

最北端ケープヨーク着

CapeYorkまでやっとたどり着きました。Cairnsを出て3日、1067・4Km，800Kmを越えるダート、始めの内は果てしなく続くコルゲーションにバークバスターのボルトは落ちてなくなり、ハンドルプラケットが緩みいつの間にかハンドルがぐっと下に引っ張られている。手も足もガクガク歯まで痛くなってきます。次にDIPが現れ始めます。単車に乗れてもジェットコースターに乗れない人は、この道は走れません。サインを見たら減速してゆっくり下る。急な所は四十度位の傾斜でほとんど真下に落ちる感じ。道の先の方は見えません。時々水がたまっているので。一度止まってから注意して浅い所を一気に渡るようにします。大きな川渡りは半島を2／3程北へ来た地点のWenlock，River。深さはブーツの上位までで50M程あります。ザックとリヤバックを先に運んでサイドバックは付けたままのぞみ、楽に渡れました。先に渡っていたオージーのネエちゃんは十四回転んで最後はエンジンがかからなくなり、4WDに引っ張ってもらったそうです。組長が野宿ライダーの中で引き返しているのは、たぶんTelegraphRdとSouthern BypassRdの分岐あたりではないでしょうか。私も最初近道のTelegraphRdの方へ行ったのですが、道は日本の林道より狭く曲がりくねっており、しかも砂が深くてDIPも盛りだくさんのフルコースでした。3km行って2回こけて引き返しました。砂の道の走りにもだいぶ慣れてきました。80Km／hで曲がっていく右コーナーは気持ちいいものです。ところが左コーナーは、ズルズルとアウトへはらみ、結局は右端のバンクでかろうじて曲がっていると言う感じ。車が来たら、天皇陛下万歳と叫ぶしかないでしょう。徐々に道は細くなり、車とのすれ違いに大変気を使います。減速が間に合わず時には左半分ブッシュの中を走ったりする事になります。しかもとき時すでに左のバークバスターはなくなっていたので、左手はビシビシと木に当たり、痛かった。

Bamagaという最北の町。大きなショッピングセンターがあるのありがたい。でも店員もお客さんも皆アボリジニの人達でチョットビビります。言葉もさっぱりわかりません。年配の人達は英語は出来ない様でした。ここで買ったスニッカーズがすっぱかったヨ。

最北のキャンプ場は1泊$5・00シャワー用キーデポジット$10で水洗トイレにお湯の出るシャワー、水道もあってとても良いコーラは$1・80、ビールが$3・00と高いが、もしこれが日本なら一番しぼりが500円はきっとするでしょう。キャンプ場から歩いて20分、遂にきましたCapeYork！　今まで見たうちで最も美しい海岸、グリーンに光る海、最高です。あ～でも明日からまたあの道を帰ると考えると…。安全第一でゆっくりCairnsまで戻ろう。

93・7・7　PM8：00

砂、泥、転倒

今、Cook Townという小さな海の町にいます。Cairnsの北250Kmの所です。Cape Yorkから3日かけて戻ってきましたが、帰りは悲惨なものでした。行きはあれだけスムーズに走れた道も雨でスリッピーになり、重い砂は大きな抵抗となり何度転倒したかわかりません。深いDIPや川渡りで大きく上がる水しぶきに砂ぼこり、泥。セローの調子は最悪で遂に最高速が60Km／hしか出なくなり、砂の道で何度スタックした事か。一度はセローの下敷きになり左足が抜けず、砂の中でもがき苦しみ、動けば更に砂にもぐり…。15分待ち4WDの人に助けてもらいました。この旅のために大きく変更したタンクとシートは今の所何の問題もないのですが、ちょうどエアーの吸入口が分割式にしたシートの部分から水や砂が入りやすく、エアクリナーエレメントはドロドロという有様でした。一昨日と今日、エレメントの掃除。今日はエアクリーナーボックスごと外してジャブジャブと大洗い。その後キャブレターの分解掃除。組み立てエンジンをかけると調子いい。気持ち良く回転が上がりスピードも元通り回復。しかし残念ながらマフラーから少し黒煙が出ている。シリンダーの中までゴミが入り傷つけたようでオイルも減っている（オイル上がり？）。まだ1万キロも走っていないのに。このセローは16－27よりもエンジンが悪くなっている。エアーの吸入口を改良すればこれ以上は悪くならないはず。Cairnsに戻ったら何とかしようと考えてます。CapeYorkはとても素晴らしい所。これからオーストラリアに行こうと考えている人はぜひ訪れて欲しい。でも僕はもう2度とオートバイではCapeYorkには行かない。何度途中で引き返そうと思ったかわからないし、もうあの道は走りたくない。転倒して痛かった、セローも傷ついた、帰りは雨が多かった。夜は深い砂の道で転倒する夢を見た。これから西へ、内陸へと入っていく旅がうまく行くか不安です。

93・7・11CookTownにて

エアーズロックへ

CapeYorkからの帰りはセローが60キロしか出なくなり、大変苦労しました。Cairnsヤマハでキャブの分解清掃をやりましたが、調子は今一。その後エキパイを外して大まかにカーボンを落としたら100キロは出るようになりますます。砂の道を走るには最低80キロは欲しい、しかもこれは加速する力のあるもの、セローも元気が出てきたのでまだダートを走り出す。Yularaまでのダートはとても走りやすくCapeYorkへの道に比べれば砂もほとんどなく、あっても浅くてコーナーも無い。とても楽でした。今日エアーズロック登山（岩？）カメラ・ビデオカメラ・パン・ジャム・チョコレート・水・オレンジジュース…それにくる途中で買ったドイツ製のパンク修理道具まで担いであ～あ大馬鹿者。靴はシドニーの安売り屋で$18のほとんどグリップしないヤツ。何度か滑って本当に危なかった。こんな所で死んだら、日本人初の記録をつくったかもしれない。登っているルートは一番緩やかな所。しかし、かなりの急斜面、チェーンをつかんで登っていく。この一年間でレスキューが24回出たそうです。落ちたら運が良くても大怪我でしょう。午前中は日本人がやたら目立つが昼には皆下りてしまう。登って写真を撮ってすぐ下りる。本当に忙しい人達だ。明日からまた北に向かいます。最近、朝晩とても寒くテントも霜で真っ白、ファスナーは砂でおかしくて、ザック、フライパン、カップ何もかも砂でジャリジャリ。「陽が長くなったなあ」と思っていたら、時差30分。そんなの関係無い一人旅、オイル・プラグ交換エアクリーナーの掃除も済ませ、がんばれセロー後半戦だ。

Yularaにて

戦士の休息

前略　DARWINに滞在しています。Alice Springsから北上し、TANAMIを走りHallsCreek，BUCHANAN－HWY・TopSpringS・TimberCreekそれからDarwinという道のりです。ここまで来ると日本人はほとんど見かけず、ぼくも「タイから来たの？」と聞かれたりして、こちらの人達も珍しいようです。DarwinYAMAHA　PITMANSで前後タイヤ、オイル交換をしました。タイヤは13708・5K走りました。フロントはまだ走れそうでしたが、次に大きなバイク屋にいつ行けるか不明なので両方交換しました。もう

（裏面へ続く）

てらちゃん

BY うなぎ石原

ボブショート冒険記

「王様、ビートが落ちました」所は多摩川新二子橋の下であります。時は、8月の初めの日曜日。ボブショートセローは、前夜ダンロップD603前後とビートクリームを買った。そして今朝ここに来たのでありました。身長155センチ、体重50キロにも満たないボブセローは、先程からピョンピョン飛びはねてビートをやっと落としたのでした。「タイヤレバーはこう入れてな・・」タイヤ交換訓練を終え、川原にて8の字やら川渡りやらを終え8月12日の夜、首都高速3号線三軒茶屋入路から、セローとXRは北を目指したのでありました。さて8月12日は地球的規模の一大イベントの夜。130年ぶりにペルテウス座流星群に地球が突入し、たくさんの星降る夜なのであります。東北道、帰省の長い車のテールランプを追い続ける700キロもの高速の旅。流れ星が降ってるし、カシオペアも見えるし、オリオンも地平線に顔を出せば、それはそれで楽しい旅なのであります。安達太良がその夜の宿でした。SAの片隅のベンチにウレタンマットを敷いてコールマンでコーヒーを沸かしてパンをかじれば、たくさんの車や人の騒音も又いいものなのです。たまにしか使わないEPIのBPランタンの透明な光がきれいでした。13日の夕方にXRとセローは、疲れ果てて北の街に辿り着き、東北南下の林道旅は14日にスタートしたのでした。そもそも、このボブショートセローと旅をするきっかけになったのは伊豆の大鍋林道でXRがセローに「いわゆるリーンアウトがだな・・」と寺さんから聞いた事をそのまま講義して

こんな他に編集後記

編集長でいく！最近土日が暇なもんで手伝いに来いよ。技が待ってるぜ

地下鉄！エッグのワープロが2台とも壊れそうで、ワープロ打ち職人も次々に姿を消し、さてどうなる。

毎日！みんなが寝てる時に仕事をしてる時に寝てるから

みんなが仕事をしてる時に寝てるから

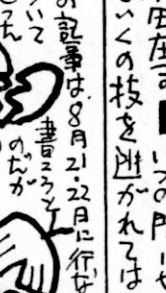
エッグで仕事をする暇がありません。

イビキがうるさくて仕事させません。

点検！ファファファ、私が謎の人物だ

本田左司！いつの間にやら仙台へ、

ていくの技を逃がれてはるばるムラ



この記事は8月21・22日に行なわれた野宿塾について書こうと思ったんだが

1日目　重富氏かまた原物庄ってよこさないもんで、次号にこうご期待。

40キロ巡行が出来るようになった頃「うまい、最高、素質がある」と、三連発のおせじをかましたのが始まりといえば始まりなのでして当初は「北海道へ行こう」なのでしたが夏の北海道が嫌いになったXRの東北の林道もいいべー」の一声で変更になったのでした。しかし8月21日の組会もあるしならば4日で東北をかたずけるべく幹線林道をおいしく長く味わう事と相成ったのでした。一本目は秋田へ抜ける田代相馬林道。そして森吉町へ抜け河北林道奥山手代林道、朝日スーパー林道赤崩峠の三本の林道群。大川林道、塩那道路、田代山林道、安ヶ森林道、川俣桧枝岐林道を抜けてセローを4日目に関越沼田ICに押し込んでXRは国道の移動で松本へ抜けR158から大白川林道高ソメ林道、白夜沢林道、幸沢・上幸沢林道、御岳林道滝越併用林道、上黒沢併用林道三浦ダムから鞍掛峠を降りて加子母舞台峠下の民宿へ辿り着いたのでした。ここまで6日間の強行軍でした。

翌日は真弓峠、北沢峠を走りリヤをVE33に替え、チェーンをDIDのXGVに替えR19、R20の快速巡行を重ね大武川の橋の下に京都のGPXとテントを張り再びR20を、小渋橋へ向かったのでした。分杭峠の下に寺さんのセローを発見し「さあ組会だー」のさすがに疲れたのでした。組会の後、地下鉄とでいくと林道へ突き進むXRは本当に不死身で狂っているのです。たくさんの山をみた。うまい水を飲んだ。雨にやられた。岩木山、鳥海山、朝日連峰、八ヶ岳北アルプス、南アルプス御岳山、甲斐駒ヶ岳・・・・・あれからボブショートセロー27才「私は髪をのばすのだ」は連絡がないのである。寺崎組の実力を思い知ったか。「ああ悲しい」　XR3515記

（一面から続く）

シドニーまで変えなくて済むでしょう。CaimsYAMAHAはメカニックが調子のいい事を言うわりにはそれほどエンジンが回らずタンク下の工具入れから大事な油まみれのタオルは無くなっているし、その代りか必要以上に大きな㊀ドライバーがオマケで付くという全くオージーらしい店でしたが、ここDarwinのYAMAHAはなかなか細かい事に気がつくし、手抜きもなく料金も安い。帰りには名刺をくれ、その裏には西オーストラリア州のいいメカニックを紹介してやるとメモしてくれました。メカニックのMIKEのバイクはWAナンバーだったから、昔ここで働いていたのかもしれません。それにしてもYAMAHAの店なのに彼はGPz600Rで出勤ですから、いいかげんで良い。しかもランニングシャツに短パン！冬にこれだと夏はパンツ一丁か！

今朝キャラバンパークで日本人ライダーに話しかけられ久し振りの日本語。始めは驚きました。やっぱり日本人がいたかと。彼はもう3年ぐらい世界を放浪している瀬戸さん。確かバックオフに出てたと思いましたが。彼から一冊のノートを預かりました。オーストラリアを自転車で旅する人が始めたノート。常にここを旅する者の手にあり常に動いている。92・12から続いています。このノートの表紙の裏には次のように記されています。

ばいきん日記
人の数だけ夢があり旅がある
旅はまた人生の縮図であり
交差点なのかも知れない
旅に想いこがれおさえきれず
旅にでる
そんな想いをそんな旅を
書き留めていただければ幸いです。
93・7・29

怠惰の日々？

エアーズロックリゾートで知り合った4WDのばあさんの紹介で今、その息子さんの所に泊めてもらっています。Darwinから5000キロ、Perthです。西オーストラリアは雨が多くまいっています。ダートは赤土のドロドロでとても走れる状況でなく、ダートロードは入口のゲートが閉められており入れません。まあ無理に入ってまで走ろうとは思いませんが。ダートは北のGibbRiverRoodとExmouthへの近道、カンナミユキロード（またはストックルート）正式名はBullara-GiraliaRoadなぜか日本語の落書きがやたらと多く名前まで日本人風。よく考えてみるとカンナミユキいう人はオーストラリアツーリングガイドブックに載っていた女性で、ここが初めてのダートとか書かれていた所ではなかろうか？　僕は今、ガイドブックを持っていないのでわかりませんが。今日の天気はシャワー。洗濯したいんだけどこんないい家でベッドに寝てると居ついてしまいそうで恐い。明日は月曜、バイク屋、P・OそしてBank。火曜日までここに滞在しよう。

旅の終わり、そして労働

前略　お元気ですか？8月25日頂度2ヶ月ぶりにシドニーに帰ってきました。シティの混雑した道、バス、道を勝手に横断する人、とてもなつかしく感じました。「おっ無事に帰ってきたか、それにしてもボロボロだな！」という街の声が聞こえたような気がしました。

パースからは東へKalgoorlie・leonoraを通りWARBURTON-ROAD　DOCKERRIVER-ROADと雨のダート1065・5Kを走り再びエアーズロックで一泊しました。このダートで初めて10ℓのジェリ缶を使い走ったのですが、まだ出来て間もない地図にも載っていなかったRoodHouseがあり、ビッグタンクだけでも足りたようでした。雨のダートは悲惨です。写真を見て頂ければわかる通り道幅は広いのですが、両端はやわらかく車が作った深い轍が何本もあり、結局中央部分の一番高く固い水たまりのある部分を走らざるを得ません。しかも時々コルゲーションだったり砂があったりで気がぬけず、スピードも40～50Kが精一杯の所もありました。エアーズロックから東へ向かっている時、ペトロを満タンにして走り出すとタンク前部からペトロミストが吹き出しているではありませんか、…何とボコボコのタンクからついにクラックが入ってしまったのだった。いったん北上、Alice Springsで修理して今はもう全く心配ありません。

STVART-HWYを南下、Mar1aから東へOODANDATTA-TRACK、LAKE-EYRE、突然現れた光輝く湖。とても美しく驚きました。PortAugustaでリアタイヤ交換、お金がもう$1000わり、ついにクレッジットカードを使ってしまった。これからまた北へBIRDSVILLE-TRACK、途中出合った車で旅をしている日本人の話では、この道は砂でたいへんだったという事でしたが、とてもフラットで楽でした。OODANDATTA-TRACKではオーストラリアンサファリの一団とすれ違い、パジェロ軍団には思いっきりヘルメットに石をぶつけられました。NSWに戻り、Coberまでは少しダートを走ったのですが、クラッチがかなり悪くなってきたので、舗装路でシドニーまでやっとこさ戻ってきました。途中、急な上り坂では25Kまでスピードが落ちシドニーまで何とかもってくれよと祈るような気持ちで走り続けた次第です。

まだまだ走りたい所はたくさんありますが、セローも僕も少し休みが必要。お金もないし仕事を探さなければなりません。

オーストラリア一周23383・9K

セローお疲れ様でした。

暇な人、全員集合

「道祖神　海外ツーリングのうたげ」

日時　93年11月6日（土）7日
場所　長野県高遠町入笠山「農協ハウス　キャンプ場」
主催　道祖神モーターサイクルツアー・ザ・ワールド
参加　海外ツーリングに行った事のある人、行って見たい人
資格
費用　一人3000円
野宿用品、酒、食料、各自持参

会場では道祖神が何らかの料理を用意
ブリスベン事務所のロン氏も参加
ついでに組長も参加
ツーリングビデオの上映
組長がボッネンと孤立しないよう、できるだけ参加した方がいいかもね。

「寺崎組新聞の定期講読のお知らせ」

この新聞は年六回の発行を予定しております。年間購読料は二千円以上です。購読希望の方は何らかの方法（現金書留・郵便振替・普通封筒に入れて等）で送っていただければ幸いです。この新聞を永続させるためにも原稿ともども新聞制作のお手伝いにも来ていただければなお幸いです。

「原稿大募集のお知らせ」

良い子も悪い子も寺崎組もその予備軍も自分らしさを原稿で写真でマンガで自分だけの表現でしてみませんか？
送り先は左記
〒一八五
東京都国分寺市東元町三～二十九～七
スタジオエッグ寺崎組

第三十四回野宿宴会塾
平5年10月16日（土）11～12時
山梨県塩山市
JR中央本線塩山駅前集合

第三十五回野宿宴会塾
平5年12月4日（土）11～12時
長野県諏訪郡富士見町
JR中央本線富士見駅前集合

第三十六回野宿宴会
平6年2月12日（土）12時～13日12時
山梨県塩山市大菩薩嶺石丸峠

第三十七回野宿宴会
平6年3月19日（土）12時～20日12時
山梨県北巨摩郡武川村小武川林道奥